



昔の人も暗記していた!?九九

奈良県橿原(かしはら)市で出土した、飛鳥時代の木簡から、当時の役人が使っていた「九九早見表」の一部が見つかりました。最新の赤外線観察装置で調査した結果「九九八十一」と書かれていて、九九早見表の一部であることがわかったそうです。元の表は長さ32.6cmの木の板に「九九八十一」から「一々如一(いちいちはいちのごとし)」まで主要な九九37個が並んでいます。木簡の内容からこれらの木簡は「大宝律令」が制定された701年頃のものと考えられ、藤原宮の門の警備に当たった「衛門府」で使われ、当時の事務官が衛士(警備を行う人)の勤務管理のための計算に使われていたのではないかと推測されています。また、九九は、大型古墳を造る際の計算にも使われたとされています。このことから、九九は千年以上も前から、日常的に使われていたことを示す史料だと、木簡は教えてくれているのです。



学校百景⑱ 百日紅

表題の漢字は何と読むかわかりますか?実はこれは「ひゃくじつこう」と読みますが、別名「サルスベリ」と言う名前で親しまれています。サルスベリは、7月から10月にかけて、ピンク、白、紫、赤などの華やかな花を咲かせます。開花期間が長く、百日咲き続けるように見えることから、「百日紅」という別名も持っています。帯西では、農具倉庫の前に、二本のサルスベリが開花中です。サルスベリは、その花だけでなく、樹皮も特徴的です。ツルツルとした光沢のある木肌で、この滑らかな樹皮のため、木登り上手なサルでさえも滑ってしまうことから、「サルスベリ」と名付けられたという説があります。江戸時代以前に中国から渡ってきたとされ、開花期間が長いため、日本でも人気の高い樹木となっています。夏目漱石も「百日紅 浮世は熱きものと知りぬ」と詠んでいます。「熱き」日はしばらく続きますが、秋の訪れも肌で感じる季節になってきました。今年は百日以上咲き続けているサルスベリの花を、今年もあと少し愛でていこうと思います。



「わくわく」チルドレン紹介

第35回子供の詩(ポエム)コンクールにおいて、1年生の田島 由宇さんの詩が優良賞に選ばれました。3,367点もの応募の中から選ばれたそうです。素直な表現で読み手の心を温かくしますね。なお、10月以降に、いくつかの受賞作品を紹介する番組「家族のWA!(KAB)」の中で放送される予定だそうです。

どちらにしようかな
たしまゆう

あさごはんは
めだまやきならパパ
たまごやきならママがつくる

とろりめだまやきか
もちもちたまごやきか

どちらにしようかな
どちらもわたしをげんきにする

